〈ケア〉を考える会（第 171 回）

■日時：2024 年 1 月 7 日（日） 13:30～15:00

■会場／参加方法
①「よりあい場ぁ（BAR） ねむの木」（倉敷市真備町箭田 5188／林道也宅）
② オンライン（Zoom）‥‥会場より発信します

■内容：読書対話‥‥本を読んで対話します

『治したくない ひがし町診療所の日々』

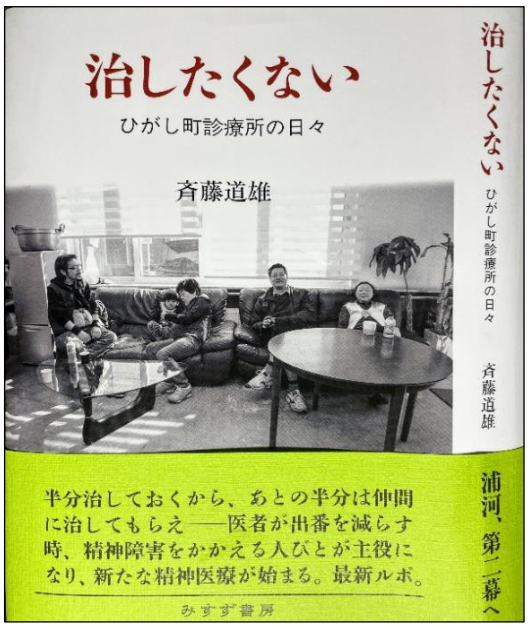
（斉藤道雄:著　みすず書房　2020 年 5 月刊）
ひとまず 116 頁～160 頁 から
この本を読んで、〈ケア〉の奥深さを知り、そもそも〈ケア〉ってなにということを考えずにはいられない

■懇親会：15:30～17:30‥‥食べながら飲みながら語り合います（持ち込み歓迎）
■参加：どなたでも参加できます。初参加歓迎。参加費無料（懇親会参加者は 1000 円）
■申込／問合せ：林道也まで ⇒ michi-care@outlook.jp　090-5366-1497

※会場参加者は申し込みが必要です

『治したくない』（本書から抜粋）

▼病気や障害を抱えながら生きる人びとにたいして、大丈夫だよということができる医者、それがことばとしていわれなくても患者に伝わっていく医者の姿（‥‥）。 ひがし町診療所にやって来る多くの患者が求めるのは医療技術ではない。安心だ。楽しさだ。（118 頁）
▼「ぼくはね、（‥‥）その人のいいところっていうか持ち味を一生懸命探しているんですよ。治してるんじゃないんです」 （‥‥）。 依存症は、医者が一生懸命になればなるほど再発と入院をくり返す病気だった。（‥‥） たどりついたのが患者の「問題」や「だめなところ」に目を向けて治そうとするのではなく、その人の「いいところ」、「持ち味」を見つけ、そこからはじめるアプローチだった。（‥‥）。 「いいぞ」を手がかりに本人の治療意欲を高め、回復への動機づけをする、すると状況は一変し、医者はなにも「がんばらない」のに酒をやめる人が出てくる（148－149頁）
▼精神障害がしばしばもたらす、わけのわからないことば、行為、常識で理解できないこと、そうしたことをあらかじめ評価し取捨選択するのではなく、一度ぜんぶ丸ごと「それでいいのだ」と受けとめること。そうする勇気を持つこと。（159 頁）



■おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。
「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。
対話には結論はありません。
プロセスをゆたかにできなくては。
（長田弘『なつかしい時間』191 頁）

■わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。
（鷲田清一『老いの空白』227 頁）

〈ケア〉を考える会　Zoom ミーティング
▼ミーティング ID ⇒ 823 8391 6541
▼パスコード ⇒ care117

■ 2 月例会:2 月 4 日(日)13:30～ 京都市下京区〈五条〉の会場で開催(Zoom オンライン有)
■ 3 月例会:3 月 3 日(日)13:30～ 倉敷市真備町の会場で開催予定(Zoom オンライン有)